平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	商工業振興に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山　順一			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	補助団体の実情を見極め、調整を図りながら、補助金の交付を行い、商店街等の活性化につなげる。
②①に基づく取組み結果	補助金の申請を行う際に、各商店街の個々のイベント事業に対する事業効果等を明確にし、検証をしたうえで補助金の交付を行った。

③平成27年度に取組む改革・改善内容	街路灯の維持管理に係る費用負担を軽減するため、各商店会に対し街路灯のLED化を推進する。

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	商工会、商店会連合会、ドリームカード会、市内13商店会	意図（対象をどうするのか）	補助金を通じ、商店街等の振興を図る。
②事務事業の概要	商工業振興補助金　商工会が行う経営改善普及事業や各商店会が設置している街路灯など共同施設の設置、イベント実施など共同事業に対して、市は補助金交付基準により補助する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	昭和63年当時に全庁的に実施された各補助金の見直しに併せ、商工会等の活性化及び育成のために創設された。ここ数年では大型店や全国展開するチェーン店の進出により、既存の商店会は厳しい立場に置かれているため、商店会の活性化及び育成は不可欠である。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	商工会及び商店街の活性化・育成を図るために補助金の支出を行った。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	補助金交付額	20,057	19,447	21,849	千円	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	24,802	21,956	金額（千円）	内容	31,954
国支出金（千円）			20,002	商工業振興補助金	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	24,802	21,956			31,954

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	電気代の上昇などにより、各商店会で保有する共同施設（街路灯）の維持管理が困難となってきている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	補助金交付基準の精査・検証を行い、商工会や商店会の育成及び活性化を図っていくため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	
②計画に対する事業実績	
③達成状況	
④未完了・非着手の理由	

平成26年度事業費の状況（単位；千円）						
計画事業費	予算額			決算額		
	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越			現年分	
		補正				
		流用・充当				
平成27年度への繰越額（単位；千円）						

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	観光ビジョン推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	4	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山　順一			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	・新たな観光振興策への着手 ・タウンミーティング等のリーディングプロジェクトを通じた市民の観光意識の醸成
②①に基づく取組み結果	タウンミーティングや高校生フォトコンテスト等を開催し、市民の観光意識の醸成を促した。

③平成27年度に取組む改革・改善内容	引き続き、 新たな観光振興策への着手 タウンミーティング等のリーディングプロジェクトを通じた市民の観光意識の醸成を行う。

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民及び市内事業者	意図（対象をどうするのか）	事業を通して市民・市内事業者の郷土愛を育て、市外住民へのおもてなしの心を醸成する。
②事務事業の概要	平成25年度に策定された、鎌ケ谷市観光ビジョンに沿った観光振興策による、まちの活性化を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民が自立的に活動を広めていくことが理想的である。こういった市民の活動に対する補助施策の検討なども必要と考えられる。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	特産品の梨を活用した「おもてなしレシピブック」を作成した。 県内の地域の魅力を再発見するため、高校生フォトコンテストを開催した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	レシピブック作成部数			1,200	部	業務取得
	ii	高校生フォトコンテスト応募作品数			166	作品	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		2,619	2,140	金額（千円）	内容	21,694
	国支出金（千円）			378	印刷製本費	19,000
	県支出金（千円）			1,338	委託費	
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	2,619	2,140			2,694

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	市民と協働による観光振興策の推進が重要となるが、そういった体制整備や市民や事業者等の横の繋がりが稀薄である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	各施策を実施するにあたり、より具体的な実施計画を策定する必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	観光振興事業
②計画に対する事業実績	高校生フォトコンテストの実施
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成26年度事業費の状況（単位：千円）						
計画事業費	予算額			決算額		
20,835	21,318	当初	1,835	2,140	H25からの繰越	0
		H25⇒26繰越	0		現年分	2,140
		補正	19,000			
		流用・充当	483			
平成27年度への繰越額（単位：千円）		19,000				